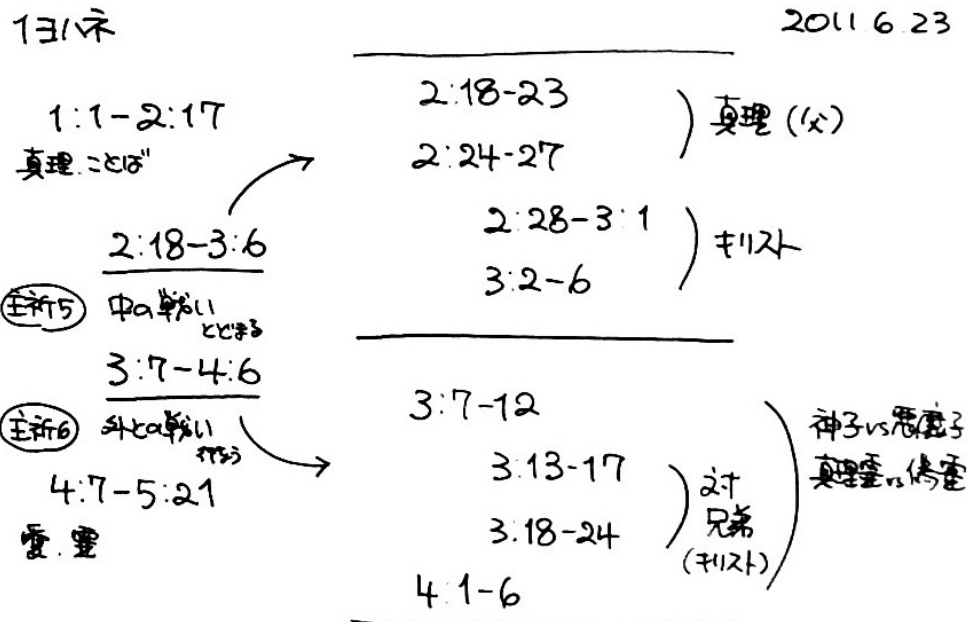




ヨハネの手紙1 2-4章



ヨハネの手紙第1を分析していますけれど、大きく分けて4つです。

1:1から2:17まで。2:18から3:6まで。3:7から4:6まで。最後に4:7から5:21まで。この4つに分かれているだろうということです。

4つに分かれているのですが、1:1から2:17までが、御父と御子、みことばがいっぱいでできますね、真理のみことば。2:18から3:6までが、何なのか。3:7から4:6までが、何なのか。4:7から5:21までは結構はっきりしていて、愛の段落と御霊の段落ということで、御父と御霊の愛に囲まれている真ん中、それで、終わりのときにということでは始まっている2:18からの1つと、3:7からの1つの区別がどういう区別だろうかということで見えました。

2:18から3:6まで、これは、真理のうちにとどまる、キリストのうちにとどまるということで、中にとどまるのかどうなのかということ。3:7からのところは、悪魔の子どもと神の子どもの戦い。兄弟を愛すること、カインの話もありますよね。それと、真理の霊なのか、偽りの霊なのか。キリストを告白するのか、キリストを告白しないのか。この世のものなのか、神から出たものなのか、ということで、中との戦いと外との戦い。中との戦いというのは、とどまること。外との戦いは、実際に行いにおいてあらわれますので、行いの話ということで分けられるのだろうと。それは、主の祈りの5番目、主の祈りの6番目の大きなくくりがありますけれど、その違いで分けられるかなということです。

2:18からの段落はaabbという形です。3:7から4:6のほうはabbaという形だろうと。aabbの中にabbaがあったり、ababがあったりすると思いますけれど、大きな流れとしては、まずは前半後半のaabbというのが、2:18からのところだろうと。

2:18からの前半は、真理について、真理にとどまることについて。2:28からのところは、キリストにとどまることについて。3:7からの段落では、囲まれていますけれど、外側が悪魔の子、悪霊と偽りの霊と戦うということ。3:13からの真ん中の2つのところ(3:13-17,3:18-24)は、兄弟に対して愛を行う。自分の命を捨てて、私たちが愛してくださいましたキリストに倣うということで、兄弟に対してどうするのか、外の敵に対してどうするのかということで、全体が構成されているのではないかなと考えています。